

富山湾漁場環境総合調査（水質・底質）について
～富山湾における水質および底質環境の現状～

栽培・深層水課
主任研究員 加藤 繭

1 背景・ねらい

富山湾漁場環境総合調査は、漁場環境の現状を把握するとともに、中・長期的な環境変化を明らかにすることを目的とする。平成 13 年度から 5 年ごとに行われており、平成 28 年度に第 4 回目の調査を実施した。

本発表では、海域の水質および底質に関する環境指標として用いられる項目の分析結果を中心に、富山湾漁場環境の現状について報告する。

2 成果の概要

1) 水質調査

富山湾内の 36 点（図 1）において、平成 28 年度 6 月期、9 月期、12 月期および 3 月期の年 4 回、表層水の水質調査を行った。有機汚濁の指標となる COD（化学的酸素要求量）について、調査期ごとの水産用水基準の達成率は、6 月期は 75%、9 月期は 94%、12 月期および 3 月期は 100%であった（図 2、3）。

2) 底質調査

富山湾内の 70 点（図 4）において、平成 28 年度 4～5 月に各定点の海底堆積物を採取し、底質および底生生物について調査を行った。有機汚濁の指標となる COD の水産用水基準の達成率は、湾全体で 80%であった。底生生物の生息阻害の指標となる硫化物の水産用水基準の達成率は、湾全体で 86%であった。底質環境の生物指標となる底生生物の出現状況は、無生物域の出現および汚染指標種の優占は確認されなかった。また、底生生物の多様度指数の値には、これまでの調査結果と比較し低下はみられなかった（図 5）。

3 成果の活用面・留意点

富山湾の水質および底質の漁場環境について現状を把握した。これらの結果は、これまでの富山湾漁場環境総合調査により得られた成果と併せ、県水産業の持続的発展のための基礎資料として活用されることが期待される。なお、本調査で用いた各環境指標の値には変動がみられることから、今後とも調査を継続し、富山湾の漁場環境に関する知見を蓄積していくとともに、その変化を捉えていくことが求められる。

4 問い合わせ先

富山県農林水産総合技術センター水産研究所 栽培・深層水課
担当：加藤 繭
TEL：076-475-0036

(参考) 具体的データ

平成 28 年度漁場環境総合調査（水質）結果

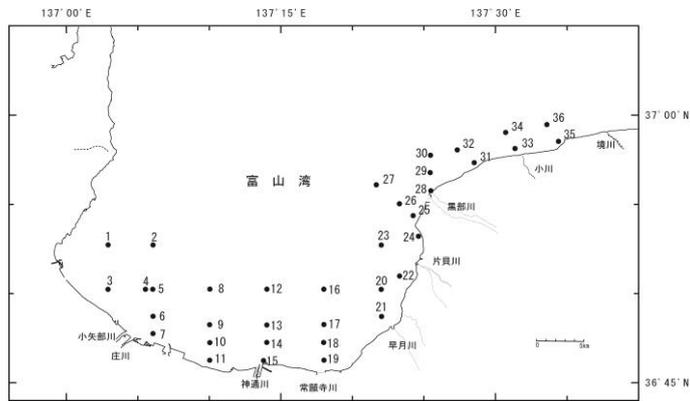


図 1 水質調査地点図

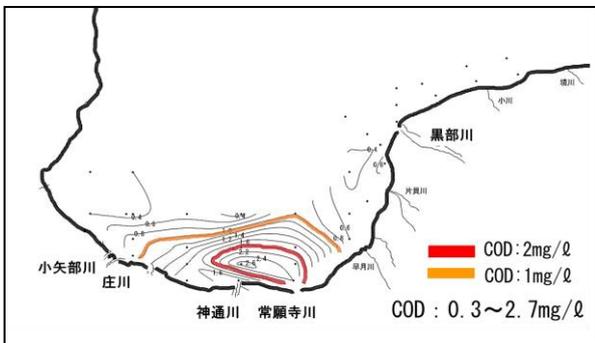


図 2 表層水の COD の分布（6 月期）

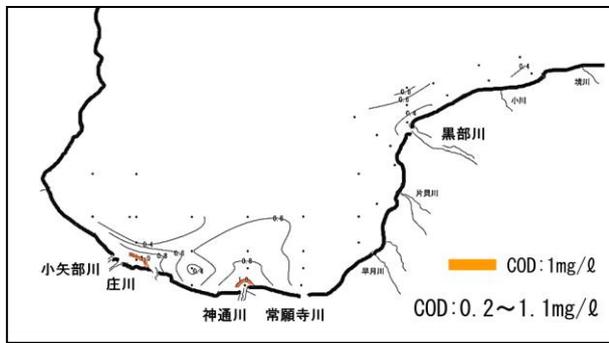


図 3 表層水の COD の分布（9 月期）

平成 28 年度漁場環境総合調査（底質）結果

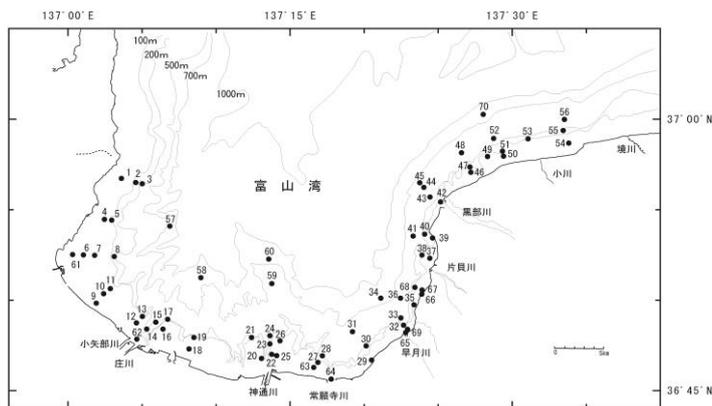


図 4 底質調査地点図

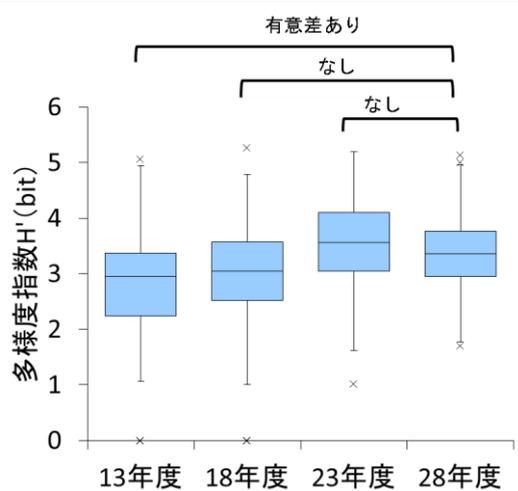


図 5 底生物の多様度指数の推移